

1. 科目名(単位数)	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) (2単位)		3. 科目番号	SSMP2156 SNMP2356 SCMP2356 SBMP2156 SPMP2156 PSMP2456
2. 授業担当教員	姜 壽男			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	社会福祉士の職域、福祉行政等における専門職、また民間の施設・組織における専門職等、ソーシャルワークにおける専門職の概念と範囲について諸外国の動向も踏まえ理解を深める。加えて、ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロレベルの対象、それぞれのレベルにおける支援の実践と相互の連関性を学ぶ。ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援と多職種連携、チームアプローチの意義と内容について理解する。			
8. 学習目標	社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	・課題レポートについては、授業の進行状況や理解度に応じて授業内で指示します。 予習や探求的な課題に積極的に取り組み、主体的な学習によって理解を確かにすると共に、問題解決力を培うように努めてください。			
10. 教科書・参考書・教材	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門]』中央法規出版,2021年 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1.受講態度・参加姿勢 40% (全授業の3/4以上の出席が必要) 遅刻(10分程度迄)は3回で1回休みとなる。 2.筆記試験・レポート課題・授業内ワーク(発表等も含む)等 60% ○評定の方法 1.ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 2.ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 3.総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。			
12. 受講生へのメッセージ	本科目はソーシャルワークの基盤と専門職(共通)の科目に続き、社会福祉専門に対応する内容であり、ソーシャルワーク専門職として必要とするソーシャルワークに関する理論習得の基礎となる科目です。今日では即戦力や実践力で問題解決ができるプロフェSSIONALのソーシャルワーカーを求められている時代です。そのため、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている本学の基本方針を基に、授業への出席、熱意ある参加、ディスカッション・作業、レポート作成などへの積極的な取り組みを望みます。なお、授業の進捗状況・理解度に合わせ、順番等を変更する場合があります。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーション: 授業内容と進め方について		事前学習	「ソーシャルワークの基盤と専門職(共通)」での学習の振り返り
			事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第2回	第6章 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲(1) 「ソーシャルワーク専門職の概念と範囲」について学ぶ		事前学習	テキスト p206-218 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
			事後学習	ソーシャルワーク専門職の役割や社会生活・地域支援の専門性と必要性について学習内容をまとめ説明できる。
第3回	第6章 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲(2) 「社会福祉士の職域と役割」について学ぶ		事前学習	テキスト p219-226 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
			事後学習	社会福祉士の働く職域や役割についてノートにまとめ説明できる。
第4回	第6章 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲(3) 「多様な組織・機関・団体における専門職」について学ぶ		事前学習	テキスト p227-234 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
			事後学習	ソーシャルワークを担う様々な職種や職場について学習内容をまとめ説明できる。
第5回	第6章 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲(4) 「諸外国の動向」について学ぶ		事前学習	テキスト p235-244 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
			事後学習	主要先進国のソーシャルワークの動向について

			て学習内容をまとめる。
第 6 回	第 7 章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク (1) 「ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象」について学ぶ	事前学習	テキスト p246-254 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	ミクロ・メゾ・マクロの意味や対象を理解し、相互の関係性についてまとめ説明ができる
第 7 回	第 7 章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク (2) 「グローバル定義と実践の展開、介入の考え方」について学ぶ	事前学習	テキスト p255-258 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	グローバル定義に基づく実践のあり方についてまとめ説明ができる。
第 8 回	第 7 章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク (3) 「ミクロ・メゾ・マクロレベルでの実践の展開と考え方」について学ぶ	事前学習	テキスト p257-267 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	ミクロ・メゾ・マクロレベルの関連性と実践の展開についてまとめ説明ができる。
第 9 回	第 8 章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (1) 「ジェネラリストの視点」について	事前学習	テキスト p270-276 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点についてまとめ説明ができる
第 10 回	第 8 章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (2) 「ソーシャルワーク実践活動と事例の検討」	事前学習	テキスト p270-276 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	実践活動や事例検討を通して学んだことや気づいた点をまとめる。
第 11 回	第 8 章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (3) 「多機関・多職種連携・協働による包括的支援体制の構築」について学ぶ	事前学習	テキスト p277-281 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	多機関・多職種連携・協働による包括的支援体制の構築についてまとめる。
第 12 回	第 8 章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (4) 「社会資源の活用、ソーシャルサポートネットワーク」について学ぶ	事前学習	テキスト p281-287 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	社会資源の活用、ソーシャルサポートネットワークについてまとめ説明ができる
第 13 回	第 8 章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (5) 「多職種連携とチームアプローチの意義」に学ぶ	事前学習	テキスト p289-302 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	多職種連携・協働とチームアプローチの意義と内容についてまとめ説明ができる
第 14 回	第 8 章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (6) 「機関・団体間の合意形成の促進とクライアントとの連携・協働」について学ぶ	事前学習	テキスト p289-302 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	機関・団体間の合意形成の促進とクライアントとの連携・協働についてまとめる。
第 15 回	まとめ : これまでの学習を振り返りその内容を確認、今後の自己課題を明確にする。	事前学習	これまでの学習を振り返り、疑問点を箇条書きにする。
		事後学習	これまでの学習を振り返り、学習目標の達成度についてまとめ、自己課題を明確にする。
期末試験			